

第 30 回グリーンプランおおた推進会議（書面開催） 意見まとめ

日 時 令和 3 年 7 月 13 日（火）～7 月 27 日（火）

出席者 島田委員、中村委員、加藤委員、前菌委員、樋口委員、相川委員、原田委員、龍口委員、西山委員、久保委員、中澤委員、菅原委員、斎藤委員、牧野委員（欠席：池邊副委員長）計 14 名

議題 1 第 29 回グリーンプランおおた推進会議（書面会議）の振り返り

・承認する：14 名 承認しない：0 名

委員

・約半数の区民が緑の多さに満足していないことから、更に改善が必要であり、緑を増やすことにあわせて適切な維持管理が重要であると考えます。

委員

・コロナ禍の世相、この先数年は続く状態の予測不透明さの中で、町のみどりづくりなど区民の学習、交流などのさまざまな施策が滞りがちで、現状に合わせた工夫の施策が、必要と思われると思います。

委員

・新型コロナウイルス感染症拡大防止の中、書面会議に賛成。

委員

・一部委員さんの御意見にも有るように、現在のコロナ感染拡大で公園管理多様性の中、管理者の御負担も増え大変だと思えます。一般利用者への周知とともに協力を御願う手立てを今後の課題として皆さんの意見を集約する必要性を感じます。

委員

・今必要と考えるのは、大規模公園の緑であり、風を感じる事のできる空間。その中で一日中安らぐこともでき、運動することもでき、何より楽しむ時間を作ることができると思います。思いっきり手足をのばせるステキなところです。

委員

・議事録にて、委員による様々な意見がある事を確認しました。その後の見解、回答もありがとうございます。

議題2 事業報告

委員長

- ・コロナ禍の中、様々な事業を推進戴き、感謝申し上げます。その一方で、コロナ禍が事業進捗へ影響を与えているか？
- ・「B 評価」について、計画通り実施しているにも関わらず B 評価がつくことに対し、区民委員からは他の評価に変えたらいいのではないかという意見があったが？
- ・令和島については、今後どのように計画に盛り込んでいくか。
- ・多摩川親水緑地（ソラムナード羽田緑地）は、どの程度増えたのか？
- ・グリーンインフラの検討は行っているか？2 期計画に入れ込むと良い。
- ・令和 2 年度グリーンプランおたの目標達成状況について、目標未達の主な理由は何か？
- ・ふれあいパーク団体などは、既に多くの団体があるが、若い人に参加してもらうために、既存の団体を引き継ぐ方法と、既存の団体の伝統や慣習は今の若い世代には合わない場合もあるため、若い人による新しい団体を作る方法もある。

委員

- ・特筆すべき事項はありません。

委員

- ・報告のあった各部門の担当事業は、今後より強力で推進していただきたい。

委員

- ・環境清掃部、令和 2 年度新設①特別緑地保全地区維持管理補助制度は、将来までの緑地保全地域を守る重要な施策で、周知をすすめ、活用して貴重なみどりを保存していただきたいです。

委員

- ・委員 13 名の充実した質問に、充実した回答に賛成。

委員

- ・ふれあいイベントができない昨今リモートや YouTube による実施など大変苦勞の跡が見受けられます。今後とも様々な工夫が必要となり他地区の成功例を参考にするなど、委員さんにも御意見を聞きながら今年度も進めていきたいですね。

委員

- ・沢山の事業にとりくまれている事が素晴らしいと思います。その事が区民の皆様にも身近に感じていただくと良いと思います。

委員

- ・進捗状況を確認いたしました。
- ・4 段階（A、B、C、D）では事業評価の判断がすべて「B」になってしまうのは致し方ないとは思いますが、「B+」もしくは「B-」などあれば、少し評価の見え方が変わるように思います。

議題3 令和3・4年グリーンプランおた改定について

- ・承認する：12名 承認しない：0名

委員長

- ・1期を総括し、実施状況をもとにした課題、その解決方法を把握し2期に反映させた方が良い。
- ・目標達成数値を設定する際には、「キリが良い数字」という考えではなく、達成可能な数値をしっかりと積み上げて検討していくと良い。例えば以下の事項など、前改定時以降の法改正、コロナ対策、社会的変化や自然現象・災害の変化等、今後に向けての重要課題について着目し、改定時に反映すると良い。
 - 都市公園法等の改正（公園等の管理方針）
 - 流域治水関連法（グリーンインフラ、雨庭等）
 - 新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方
 - リスクマネジメント
 - SDGs（他行政のように施策への後付けではなく、達成目標値の設定まで踏み込む方が良い）
 - 2050年カーボンニュートラル 等々

委員

- ・「緑の見せ方」という大切な視点が含まれたことに賛成したい。

委員

- ・プランをより具体的に眼に見える「デザイン」に落とし込み、ハード／ソフト、開発／保全・維持管理、多様な利用者／提供者などの様々な視点で相互に参加し合い補完し合い相乗効果の出る総合的な内容としていただきたい。
- ・以上のポイントがフェーズごとに検証できる仕組みをつくり、今後確認していきたい。

委員

- ・高齢者雇用安定法10条2.2項に規定する創業支援等措置、同項2項に規定する社会貢献事業に係わる委託契約に基づき、高齢者が行う事業を（令和3年4月1日施行）地域の拠点を活かしたみどりづくりで取り入れ、久が原地区ライラック通りで試行の取組み、好評させ拡げていくことを期待致します。

委員

- ・公園・緑地・川・池の防災を考えた利用方法を推進拡大をお計り頂きたい。近々の地震発災対応の充実を御願いたい。

委員

- ・「新たな生活様式とオープンスペースの活用」について、外出先で休んだり簡単な食事をした時、これまではカフェやファストフード店に入る事が多かったですが、コロナ禍では店内で飲食することのためらいもあり、テイクアウトする事が多くなりました。しかし、街中でちょっと休むようなスペースやポケットパークを見つけることは、都心になればなるほど困

難です。この猛暑の中でも木陰で休める小さなベンチやコーナーがあればと実感しています。大掛かりな計画だけでなく、隙間のような狭いスペースでも上手く活用できれば良いと思います。

議題4 区民アンケート

・承認する：12名 承認しない：0名

委員長

- ・緑視率調査の画像について、写真を再選定した方が良いのではないかと比較する写真を構成する様々な要素（空、建築物、緑の状況等々）や比率が異なっており、緑視率を比較するには適当では無いのではないかと。例えば一般的な区道等の人々になじみのある場所で、1枚の写真を使用して緑を増やすような方策を検討するなどのやり方が良いのではないかと。
- ・緑視率の目標値設定手法は以前から論文等で議論されている。それらを参考にしてはどうか。地域ごとに満足する緑視率が変わると考えるため、その目的であれば、現行のような地域別に代表的な写真で対応しても良いと思う。
- ・緑視率の調査地点については、「まちづくり」に反映し得るものとして選定し、また評価方法も同様に「まちづくり」に貢献できるものにしてはどうか。「視点場」を設定し、より良い景観形成を目指して緑を増やすという考えもある。

委員

- ・特筆すべき事項はありません。

委員

- ・問9の(22-1)は「複数回答可」でしょうか。
- ・区民アンケート(案)の項目だけでなく実施計画全体(目的、体制など)も添付し全体を確認したかった。

委員

- ・問1 男女の性別を入れたら、情報傾向が、全体と共に分析できるのではないのでしょうか。
- ・問4 現在は平常時でなくコロナ禍で、様々な講習会やイベントの取組の多くが中止ですが、どの程度の方(割合)が、活動意欲を持ち、今後持続させていく、いい質問と思います。
- ・問7 社会環境の変化に伴う、みどりの役割が、基本的なものから多様化する今、何が求められているのか、問題意識の重要性につながります。

委員

- ・区民1世帯1㎡花壇づくりについて追加要望します。

委員

- ・アンケートの中に大岡山駅前花壇の写真掲載を御願いたい。

委員

- ・問2 各項目について名称による認知度の問いだけでは、「知らない」の回答が多くなるよう

に思われます。「みどりの条例」については条例の参考図例、「まちの緑の図」については事例地図等の視覚的な情報があれば、回答結果も変わってくるように思われます。特に「18色の緑づくり」については、ロゴマークなどを示してアンケートを取っては如何でしょうか。また、どこでそれを認知したか（区役所、区報、Web、パンフレット、街中…）のアンケートが取れると、今後の広報にも役立つように思います。

- ・問3 問2同様に図や事例写真がある方が、分かりやすいと思います。
- ・問4 今後の参加に興味がある「ある」「ない」のアンケートを加えては如何でしょう。
- ・問8 撮影場所の具体的な住所を示すことは難しいと思いますが、周辺環境が分かるように用途地域（住居地域、商業地域、準工業地域等）や道路幅員などもう少し具体的な情報を示した方が良いと思います。（直感的にとの問いですので不要かもしれませんが…）また、この回答結果から今後計画にどのように活かせるのかよく理解できませんでした。「みどりの条例」では緑化面積や樹木本数が基準になってしまっていますが、このアンケートによる直感的な印象の回答が緑化の見直しに反映できれば良いと思います。

その他の意見

委員

- ・コロナ禍でイベントが中止になり、みどりを育てはぐくむ事業でもITが活用され始めている。情報発信は常に工夫が求められるところではあるが、発信して終わりではなく、きちんと区民に届いているのかフォローアップ、検証することも必要であると思う。

委員

- ・コロナ禍、イベント等の活動は自粛されているが、広報活動や情報提供をはじめ、調査・整備、対策・検討など日々の活動は確実に実施されている。
- ・これらの成果が今後、区民を巻き込んだ活動につながることを期待します。

委員

- ・1 緑化の推進の一例（写真在中）
 - ①近所の建売一戸建在住14年、敷地面積30坪（緑地面積2ヶ所、80cm×30cm）、鉢植えで、隣家とのブロック塀を生垣にして美しい佇まいです。朝夕の手入、みどりの好きな方です。
 - ②近所の方で、一戸建で庭はなく、玄関先で鉢植えで野菜を育成しています。種を知人の岐阜の農家からとりよせ、発芽させ、苗を大きくしています。花植えの鉢と調和させて工夫、見事なものです。後学のため参考になります。
- ・2 街路樹の維持管理、清掃について
 - ①花木の花街道（場所 久が原5-4-3から呑川まで）（約20本）現在、樹の根元の丈高の雑草、秋の落葉の清掃の件ですが、落葉は夜間、清掃車がきているそうですが、昼間は道の善意ある住人が行っています。こういった方も無限にいられないので、30m位先の久が原

児童館前の自治会の18色の花づくりなどの活動、地域の団体などふまえて一考のほどよろしくお願ひ致します。

②池上本門寺通り商店街

知人の店主が、秋の落葉の件で、店前の道路の清掃の苦情をいい、緑を、清掃の面しか見ないです。手入れも好きではなく、店内は、造花の鉢植えです。みどりの量の多さには反対そのものです。いろいろな考え方の方に対応が必要です。

・3 終活問題でのみどりの処理

処分、再活用など、相談、助言の機会

委員

・様々な作業が有る中、職員の皆様大変御苦勞様です。今後とも宜しく御願ひいたします。

委員

・今私達の大きな課題である、SDGsを考慮して何ができるかと考えたとき、無駄のない緑の保全かと思ひます。必要なところに必要な緑、無駄にしない緑をと思ひます。